

## 日本救急看護学会投稿規定

1. 本誌への投稿資格は、共著者も含めて日本救急看護学会員に限る。ただし、依頼原稿についてはこの限りではない。
2. 本誌の領域は救急看護のみとする。
3. 論文は未発表のみに限り、重複投稿は禁止する。
4. 論文はいずれかに分類する。総説、原著、研究報告、実践報告、事例報告、調査報告、資料・その他である。
  - 1) 総説：救急看護の分野に特定したテーマについて多面的に内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状况を分析・概説し、考察したもの。
  - 2) 原著：基礎・臨床を問わず、救急看護の分野に特定したテーマで、独創的で新しい知見が論理的に示されており、信頼性が高く、看護学の知識として学術的価値の高いもの。
  - 3) 研究報告：救急看護の分野において、内容的に原著論文には及ばないが、研究結果の意義が大きく、看護学や看護技術の発展に寄与すると認められるもの。
  - 4) 実践報告 救急看護の分野において、看護実践として独創性に富み、今後の看護実践に有益な論文。
  - 5) 事例報告：救急看護の分野において、事例として独創性に富み、今後の看護実践に有益な論文。
  - 6) 調査報告：救急看護の分野において、アンケート調査、歴史的事実の調査を行い、その結果を分析したもの。
  - 7) 資料・その他：機関誌委員会が適当と認めたもの。
5. 投稿論文の採択は査読後、機関誌委員会で決定する。
6. 本文および文献を含め、執筆枚数は論文別とする。写真・図・表込みで原著、研究報告は16,000字以内とし、総説、実践報告、事例報告、調査報告、資料・その他は12,000字以内とする。字数を超えるものについては、委員会で検討し決定する。
7. 著者校正は1回とする。校正の際の加筆は原則として認めない。
8. 論文執筆の要領
  - 1) ワードプロセッサで作成し、正1部、副6部を提出する。最終原稿は使用したOS、ワードプロセッサソフト（Word、一太郎など）を明記し記録媒体に保存し提出すること。
  - 2) 文章は新仮名遣いを用い、句読点は全角とする。外国語は活字体を使用し、記号・英数字は半角とする。外来語は全角カタカナを用いる。
  - 3) 人名・地名などは原則として原語を用いる。
  - 4) 章節のはじめは、I II III…… 1 2 3……1) 2) 3)…… (1) (2) (3) ……①②③……の順とする。図表の中の数字はアラビア数字を用いる。
  - 5) 図表は原則としてそのまま印刷に用いるため、明瞭なものにする。図表は1枚ずつ別々の用紙に記載し、本文とは別に一括し添付する。また、挿入位置は本文中の右欄外にそれぞれ朱書きする。
  - 6) 原稿の表紙には表題・著者名・所属機関名を日本語および英語で記載する。代表者の連絡先および写真・図表の数、希望する論文の種類・別刷必要部数を明記する。
  - 7) 原稿には600字程度の和文要旨と5つ前後の日本語のキーワードをつける。
  - 8) 総説・原著論文には、英文のタイトル、英文要旨、および英語のキーワードをつける。
  - 9) 本文中の文献は引用順に番号をつける。最後に番号順に一括して記載し、本文中にも引用部分が見えるように文献番号をつける。引用文献の記載は次の形式による。（他 科学技術情報流通技術基準 参照）
    - ①雑誌の場合：著者名、論文名、雑誌名、巻：ページ（巻数、号数、ページ数）、発行年
    - ②単行本の場合：著者名、論文名、書名、引用ページ、発行所、発行年
    - ③著者名が複数の時には、3名まで列記する。省略するときには、和文著者名では“他”、欧文著者名では“et al”を用いて省略する。
  - 10) 原稿は下記に提出する。論文の執筆要領を大幅

に逸脱したものは受け付けない。

9. 別刷りを希望する場合すべて著者の負担とし、別途請求する。
10. 9月末までの投稿は第3号、3月末までの投稿は翌年度第1号の掲載を予定するが、査読の進行状況によりこの限りではない。

〒164-0001

東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版事業部内

一般社団法人日本救急看護学会事務所

tel 03-3384-8030 / fax 03-3380-8627

E-mail qq\_kango\_publish@herusu-shuppan.co.jp

平成11年11月25日発効

平成15年3月16日一部改定

平成18年3月18日一部改正

平成18年9月2日一部改定

平成20年9月14日一部改定